

令和8年度 手稲鉄北小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：27504

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

実態	「学ぶ力」	
	成 果	課 題
	◇全国学力・学習状況調査の児童質問の結果から、「友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と回答した児童が多い。 ◇札幌市の共通指標から、「意見の違う人とも、よく話し合おうとしている」という児童の割合9割近くを占めており、他者と協働しながら学ぶ意識が高い傾向が見られる。 →児童は、他者を尊重し協力し合う素地が十分に備わっていると言える。自分の考えを効果的に伝える技術を身に付け、対話の質を向上させることでより深い学びにつながっていくと考える。	◇全国学力・学習状況調査の児童質問の結果から、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した」と回答した児童の割合が全国平均を下回っている。 ◇札幌市の共通指標から、「意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるよう、話の内容や順序を考えている」という項目が、他の項目と比べ肯定的な回答が低い。 →児童は、自分の考えをもつことはできているが、それを相手に論理的に伝える力を育むためのトレーニングと、その重要性を実感する経験が不足していると言える。
	「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の態度〉の現状と課題	
	◇校内アンケートにおいて、「学習時に友達の考えを取り入れるなど、多様な見方や考え方をしている」と回答した児童が 9 割を超えた。これは、日常的な協働学習の充実に加え、異学年交流や「つながろう！てつほくデー」等の取組を通じ、児童が多様な人と関わる機会を充実させた成果だと言える。今後は、相互承認の態度をより高めるため、児童相互の評価活動や、自己肯定感を高めるための意図的な価値付けを一層推進していく。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

問いや学びを繋げて考えることで、自分の学びや思いを深め、生かす力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	◇子どもが（問い・学び・思いを）①繋げること②深めること の2つを重点とする。 【子どもが ①繋げるための手立て】～主体的に学ぶ子どもの姿がある単元の構成～ ・自分事として学びを進めることができる単元構成 ・主体的に学ぶ意欲を支えるための「学び方」の積み上げ(学習の進め方、教科の見方・考え方) →単元を貫く課題の設定、子どもが見通しをもつ、必然性のある「問い」を生み出す →既習や生活経験、教科の系統性などのつながりを意識した学習展開 【子どもが ②深めるための手立て】～「磨き合う」学び合いを目指す授業～ ・交流の段階を把握し、実態に応じた交流をしながら「磨き合い」を目指す ・視覚化（板書やICT）、リフレクションに力を入れ、<u>変容を自覚できるようにする</u>	（1）相互承認を高めていく取組の計画と推進 ・「認め愛で みんないい顔」をスローガンにした6年間の継続（他の部との協働） ・「あいさつの鉄人」や「つながろう！てつほくデー」などの取組 （2）自主的な活動の充実（自分たちの生活を振り返る場の設定） ・4つの「あ」（挨拶・歩き方・遊び方・後片付け）を基本軸とした行事や学習のリフレクション（キャリアパスポートの活用） （3）年間カリキュラムの活用による学年・教科・行事・学活の繋がり ・カリキュラムマネジメントの徹底
	「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
	◇主に【課題探究的な学習】①（見通しをもった学習）、②（交流やリフレクション）、【自主的な活動】（2）について、複数のツールの中から適当なものを、児童が自ら選択できるような環境を整備するとともに、各ツールの利点などの特色について事前指導の機会を設ける。	

<本プログラムの実行に向けて>

新年度 ◇本プログラム共有 ・新年度職員会議 ・研究全体会（5月15日）	【一人一人の教職員】 ◇日常の授業改善 ◇学級運営計画に基づく学級活動の推進 ◇各自の研修…札幌教研、年次研修等	【学校全体】 ◇実践交流・校内研修 ・各ブロックによる全校研 ◇子どもの育ちを共有 ・学年研修、パートナー校との実践交流	次年度へ ◇学校評価 ◇育成プログラム見直し ◇成果・課題の整理、共有 ◇研究全体会（2月19日）
--	--	---	---

